

◆大使からの活動報告<ケツアルテナンゴ視察>

平成 27 年 11 月 23 日

在グアテマラ日本大使館

特命全権大使 川原英一

◎はじめに:

当方、11月10日から12日迄、国内西部地方に出張しました。

当国第二の大都市を有するケツアルテナンゴ県は、2千メートルの高地にあり、山々に囲まれて自然の豊かな農業地帯です。同県南部には地熱発電所があり、また、県都近郊の高地に、ラム酒として世界最高峰との名声を得ている「ロン・サカパ」の熟成工場があり、大変に興味深い土地柄です。同県内の各地方自治体は、日本からの協力隊員の受け入れが最も盛んなところであり、この機会に一部関係自治体首長・関係者とお会いし、また、協力隊員の活動現場視察および隊員8名との懇談を行いました。

◆スニル地熱発電所の視察:



1999年8月、当国電力公社(INDE)と民間企業が共同運営する地熱発電所が完成。現在、平均13MWの発電を行っています。この発電所(←左横写真)は、山間の急峻な斜面を切り開いて建設されており、さらに斜面を登ると地下1.5キロほどのところから蒸気が吹き上がる噴出井や使用後の蒸気をパイプで地下に戻す還元井など(左下写真)を視察しました。

地熱発電所周辺のスニル市山間部には、湧き出る温泉を利用したサウナ施設を有する地元ホテルがありました。同ホテルに泊まったところ、翌朝、多数の民族衣装に身を包んだお母さん達が小さな子供を連れて集会を開いており、地元女性達の組織化がなされていることがうかがえ、スマート・フォンを駆使している女性を見受けました。こうした山間部でもインターネットや携帯電話が普及していることが、実際に確認できました。また、山間部で平坦な農耕地が限られているため、周辺の間山の急斜面まで野菜畑として利用されていた(←左写真)のが印象的でした。

■カンテル市の市長との懇談:

カンテル市庁舎に市長を訪問しました。日本とグアテマラ外交関係80周年を迎えた今年は、文化交流・人的交流を積極的に進めて、より多くのグアテマラの人々に日本を身近に感じてもらえるよう尽力していることを当方から申し上げました。ティサル(Tixal)



市長からは、従来からの日本の技術協力により、当地では有機農作物栽培やビニールハウス栽培が盛んとなっており、収穫されたトマトなど多様な高原野菜は、国内のみならず一部は海外輸出もされている、日本の従来の農業分野協力に感謝しますとのご発言がありました。同市長(左写真の右端の方)との懇談の席には、市議員や数年前、

日本での有機栽培農業の研修を2か月間受けた元JICA研修員(左写真の左側2名)も同席しておられました。

また、現在、協力隊員2名が、同市内の各小学校を定期的に訪問して、児童への環境教育や教員のための算数教授法について研修



を行っており、これら協力隊員の活躍を大いに評価していますとの同市長の発言がありました(左写真:鈴木隊員による算数授業研修風景)。

その後、協力隊員の活動拠点を訪問し、自治体受入機関責任者などとお会いし、お話を伺いました。(当方の質問に対し)中村・鈴木両隊員から、訪問

先の各小学校の校長自身の子供たちへの教育方針・熱心さの度合いに応じて、学校教員の教え方や学校の雰囲気大きな違いを感じますと語っておられました。

◎ケツアルテナンゴ市視察:

11日昼前、ケツアルテナンゴ市に到着。市内に最近できた大型ショッピングモールを視察。ウォールマートといった米系資本大型スーパーも入っており、広い同店内にはブラック・フライデーにセール予定の電気製品など山積みされていました。モール周辺にある当国で人気のファースト・フード店(Campero など複数店舗)には、平日の昼ですが、子供連れの家族で大賑わいでした。市場が市内の至るところにあり、特に動物園前などの狭い道路では、渋滞して、活気を呈していました。

◆ロン・サカパ熟成工場視察

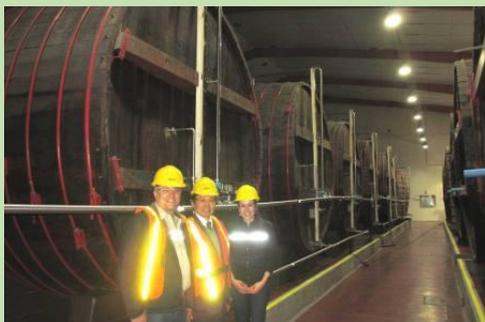
11日午後、市内中心部から15分のところに、ロン・サカパの熟成工場(aging plant)を訪問しました。工場責任者に広大な工場内を案内してもらいました。この工場は1970年に完成し、今年で45年目を迎えたこと、工場内には70名弱の従業員が働いていること、雲よりも高い高地の気候(温度・湿度)がラム酒の熟成に非常に適していること、ロン・サカパの材料となるのは、自社のサウキビ栽培専用プランテーションから



最初に絞りとられたバージン・シュガーであり、これを発酵させたものを原酒として使い、この熟成工場で長期間熟成するにつれて、琥珀色に変わり、香りも豊かになることなど伺いました。

特に、樽で寝かせる作業の繰り返しが大事なこと、使用済みの樽を米国(バーボンウイスキーの使用済樽)、スペイン(シェリー樽)、仏(ブランディー樽)から輸入して利用しているとのことでした。

このような樽で、ラム酒を、何度も詰め替え作業を行いながら熟成させ、最終的には、大樽(1樽2万リットル)内で、熟成度の異なるラム酒のブレンド作業を行っているといった



説明でした(下写真)。広大な敷地内には、樽が積み上げられており、また、多数の倉庫内で眠るおびただしい数の樽酒は、6段の高さにしっかり固定されており、地震でも崩れ落ちないように塩梅されていました。

◆日本とロン・サカパとの最初の大口取引

1997年に日本の大手商社から邦人の方がやって来て、ロン・サカパの魅力をも日本へぜひ紹介したいと考え、98年から2007年までロン・サカパ社との10年間輸入販売契約を行い、1万ケース(12万本)がこの工場から日本に向けて出荷されたとの話を伺いました。また、工場責任者からは、最近、ロン・サカパの需要が増大しており、同工場とは別に同じ市の周辺にさらに熟成工場が建設中であるとの説明がありました。

◎協力隊野球隊員の活動現場視察:

11日午後、ケツアルテナンゴ市内の総合スポーツセンターを訪問しました。本格的な競技用トラック、屋内



水泳競技場(25メートル、8レーン)、野球・サッカー場などがあり、多くの子供達が練習中でした。センター内にある広い野球場には、30数名の子供たち(6歳から17歳)が練習中でした。初め



て野球を始めたばかりの小さな子供から、国の選抜チーム選手に選ばれている高校生までが、分かれて守備練習や打撃練習(右上写真)を行っていました。

隊員と一緒に子供たちの野球指導している野球コーチからは、野球道具が不足していることも聞きました。県総合スポーツセンター責任者からは、近々、スポーツ協力隊員が赴任する予定であり、楽しみにしている、日本からの支援に深く感謝していますとの

言葉を述べておられました。

◎協力隊員との懇談:

11日夕、ケツアルテナンゴ市内で、シニア隊員1名を含め8名の協力隊員と懇談しました。参加できた隊員の中では、算数教育隊員が一番多く、次いで、環境教育、栄養改善、スポーツ指導の隊員でした。近藤JICAグアテマラ事務所企画調査員にも同席して頂きました。(右上写真:懇談参加者との記念撮影)



各隊員から協力隊員を志望した理由や受け入れ先での課題などをお聞きしました。ベンチャー企業経験者や現役の学校教員などがおられて、日本から飛び出して、国際協力をしたいと考えて志望された旨のお話がありました。また、先住民系が人口の9割以上と圧倒的に多いのですが、彼らは、おとなしく、優しく、真面目な人たちがとても多いと伺いました。(了)